

# 四国における瀬戸内海クルーズ 振興に向けた提言書



道後温泉



瀬戸内海の島々



しまなみ海道



クルーズ船寄港（イメージ）



松山城



金刀比羅宮



栗林公園

平成29年9月26日  
四国における瀬戸内海クルーズ振興検討会

## 目次

1. はじめに .....	- 2 -
2. クルーズ振興の進め方 .....	- 3 -
3. 高松港及び坂出港へのクルーズ船寄港促進に向けて .....	- 5 -
4. 松山港へのクルーズ船寄港促進に向けて .....	- 6 -
5. 瀬戸内海クルーズ振興検討会 委員名簿 .....	- 7 -
6. 検討会の開催経緯 .....	- 8 -

## 1. はじめに

世界に誇れる文化、歴史、景観を有する瀬戸内海に面する四国海域において、瀬戸内海の多島美や瀬戸内諸島の個々の魅力を最大限生かし、クルーズ船の更なる寄港拡大を実現するため、平成 29 年 5 月 22 日に地元関係者からなる「四国における瀬戸内海クルーズ振興検討会」を設置し、大手外航クルーズ船社や有識者を招いて、検討を進めてきた。

検討にあたっては、クルーズ振興方策の具体化を図るため、検討会の下に「高松・坂出WG」及び「松山WG」を設置し、各港における個別事情や課題を踏まえ、具体的な検討を進めてきた。

いずれの港においても、これまで誘致活動等が行われてきたところであるが、今回の提言を踏まえ、更に効果的な振興を図っていくことが望まれる。

瀬戸内海の他の港湾においても、本検討会での提言や検討内容を参考に、活発な取り組みがなされるとともに、瀬戸内海の各港湾が更なる連携を図り、瀬戸内海におけるクルーズの一層の魅力向上とクルーズ船の寄港増大を期待する。

## 2. クルーズ振興の進め方

具体のクルーズ振興にあたっては、地元関係者が協力し、以下の取り組みをしっかりと行うこと。

(瀬戸内海の魅力を活かしたクルーズツアーの検討)

瀬戸内海における航行規制を前提としつつ、瀬戸内海の魅力を十分に生かしたクルーズツアーの検討を行うこと。

(地元の受入体制の充実)

クルーズ船寄港促進の重要性を認識し、地元関係者が誘致に向け、協力して取り組むこと。

クルーズ船旅行客の港に対する好感度を高め、更なるクルーズ船の増加・定着につなげていくため、官民が一体となった誘致や受入体制の充実を図るための推進体制の構築、おもてなしの更なる充実を図ること。

(積極的な誘致活動)

商談会への積極的な参加をはじめとするあらゆる機会を通じた誘致活動や、地元関係者のクルーズ船への理解・関心の促進に取り組むこと。

(クルーズ船旅行客への地域の観光情報の提供)

クルーズ船旅行客への地域の観光情報を効果的に提供するため、W i - F i 環境や主要な観光地までの多言語表記を設置すること。

(S O L A S、C I Q等への対応)

外航クルーズ船の寄港にあたっては、より一層のおもてなし効果を高めるために、S O L A S条約に基づく制限区域のレイアウト変更等により、バス・タクシーや一般市民が安全に埠頭内に入れるよう、必要な安全措置を講じること。また、港におけるC I Q手続きを埠頭内で行う場合は、必要に応じ、仮設テントの設置など、クルーズ船旅行客への負担に配慮すること。

(港湾貨物とクルーズ船との競合)

クルーズ船の寄港岸壁が港湾貨物と競合する港湾においては、クルーズ船社等からの寄港要請があり次第、港湾管理者は、利用者との調整を速やかに行うこと。

(クルーズ船に対応した港湾施設の改良)

大型クルーズ船等の入港により、港湾施設の改良が必要となる場合は、既存施設を有効に活用し、ストック効果の高い整備に取り組むこと。

なお、各WGで議論した個別港における取り組みについては、次のとおり。

### 3. 高松港及び坂出港へのクルーズ船寄港促進に向けて

- ① 備讃瀬戸航路における巨大船の夜間航行規制等の制約を前提に、誘致活動を行うこと。  
夜間航行規制のない小型船（ラグジュアリー船）については、積極的な誘致を図ること。  
また、クルーズ船が、高松港へ入出港する際、クルーズ船と他の船舶双方の安全確保の観点から、備讃瀬戸航路と代替航路の2ルートが存在を積極的にPRすること。  
さらに、瀬戸内海の多島美や瀬戸内諸島の魅力を最大限活かし、a)小豆島（坂手港沖）や直島（宮ノ浦港沖）などによる沖泊からの通船によるエクスカッションツアーやb)ポジショニング・クルーズ、c)レール&クルーズやフライ&クルーズ、d)夜間停泊と瀬戸内海の昼間の航行といった、クルーズプランの可能性も検討すること。
- ② 高松港においては、大型クルーズ船対応の港湾施設の整備や航行安全検討がなされており、今後は、クルーズ船の着実な寄港の実現に向け、既存の推進体制を活かし、地元関係者がソフト面にかかる受入環境の更なる充実を図ること。また、港湾貨物と競合する際には、関係者による円滑な調整を図ること。
- ③ 坂出港においては、大型クルーズ船の寄港に向け、坂出市が港湾施設の改良を検討するとともに、港湾貨物と競合する際には、関係者による円滑な調整を図ること。  
さらに、クルーズ船の寄港促進のため、官民が連携して、おもてなしの一層の充実や寄港地での旅行、買い物、食事など、地元の受入環境を整えるための推進体制を構築すること。
- ④ 高松港・坂出港の連携をはじめ、瀬戸内海各港で連携体制の充実を図り、クルーズ船寄港要請の「お断りゼロ」を目指すこと。

## 4. 松山港へのクルーズ船寄港促進に向けて

- ① クルーズ船の寄港促進のため、官民が連携して、おもてなしの一層の充実や寄港地での旅行、買い物、食事など、地元の受入環境を整えるための推進体制を構築すること。
- ② 松山の魅力を活かすとともに、しまなみ海道のサイクリングツアーなど、周辺の観光資源と連携したクルーズプランの提案などにより、広く内外のクルーズ船の寄港誘致活動に積極的に取り組むこと。
- ③ 外航クルーズ船の寄港にあたっては、バス・タクシーや一般市民が安全に埠頭内に入れるよう、必要な安全措置を講じること。また、C I Q手続きを埠頭内で行う場合は、必要に応じ、仮設テントの設置など、クルーズ船旅行者への負荷に配慮すること。
- ④ クルーズ船の寄港岸壁が港湾貨物と競合する場合は、関係者による円滑な調整を図ること。
- ⑤ 松山港は、大型クルーズ船を安全に係留させるための岸壁能力が不足していることから、まずは、四国地方整備局・愛媛県等の関係機関が、既存施設を活用した港湾施設の改良に着手すること。
- ⑥ また、大型クルーズ船の航行安全対策の検討を含めて受入環境を整え、多様なクルーズ船が安全に寄港できる環境を整えること。

## 5. 瀬戸内海クルーズ振興検討会 委員名簿

香川県商工会議所連合会	会長	竹崎	克彦
香川県観光協会	会長	三矢	昌洋
香川県バス協会	会長	佐藤	邦明
香川県旅客船協会	会長	堀川	満弘
高松港運協会	会長	松村	英幹
坂出港運協会	会長	綾	政彦
香川県土木部	部長	葛西	剛
香川県交流推進部	部長	安松	延朗
高松市創造都市推進局	局長	土岐	敦史
坂出市建設経済部	参事	藤岡	和也
愛媛県商工会議所連合会	会頭	佐伯	要
愛媛県観光物産協会	副会長	新山	富左衛門
愛媛県バス協会	会長	清水	一郎
愛媛県旅客船協会	副会長	瀬野	恵三
松山港運協会	会長	松本	恒昭
愛媛県経済労働部	部長	菅	豊正
愛媛県土木部	部長	樋口	志朗
松山市産業経済部	部長	大崎	修一
松山市都市整備部	部長	川口	学
四国地方整備局港湾空港部	部長	宮島	正悟
四国運輸局交通政策部	部長	中本	隆
四国運輸局観光部	部長	堤	俊哉
四国運輸局海事振興部	部長	鋸本	光司

(敬称略・順不同)

## 6. 検討会の開催経緯

### 検討会

- ・ 第1回検討会 平成29年5月22日  
（コスタクルーズ日本支社糸川雄介支社長（講演））
- ・ 第2回検討会 平成29年9月26日

### 高松・坂出WG

- ・ 第1回WG 平成29年7月11日  
（（一財）みなと総合研究財団 山本三夫クルーズ総合研究所長（講演））
- ・ 第2回WG 平成29年8月30日

### 松山WG

- ・ 第1回WG 平成29年6月9日  
（カーニバル・ジャパン 堀川悟代表取締役社長（講演））
- ・ 第2回WG 平成29年8月10日